

防除ガイド

直播水稻除草剤一覧

○=対象雑草 空欄=草種別評価なし

番号	商品名	薬剤名・(成分%)	成分使用回数 (内は本田用)	使用期間	10a当たり 使用量	処理方法	使用回数	対象雑草と処理限界												
								ノヒエ	一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	ヘラオモガタ	ウリカワ	ヒルムシロ	セリ	藻・表層剥離				
1	クリンチャー 1キロ粒剤	シハロホップブチル (1.8)	3回以内	は種後10日～ノヒエ3L (収穫30日前まで)	1kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内	○												
				は種後25日～ノヒエ4L (収穫30日前まで)	1.5kg			○												
2	クリンチャーEW	シハロホップブチル (30.0)	3回以内	は種後10日～ノヒエ5L (収穫30日前まで)	100mL 希釈水量 25～100ℓ	雑草茎葉散布	2回以内	○												
3	クリンチャーバス ME液剤	シハロホップブチル ペンタゾン (3.0) (20.0)	3回以内 2回以内	は種後10日～ノヒエ5L (収穫50日前まで)	1,000mL 希釈水量 70～100ℓ	乾田・落水 状態で雑草 茎葉散布	2回以内	○	○	○	○	○	○	○						
4	キックバイ 1キロ粒剤	イマズスルフロン エドベンザニド ダイムロン (0.9) (15.0) (15.0)	2回以内 2回以内 2回以内	は種後5日～ノヒエ2L (収穫90日前まで)	1kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	サーベックスDX 1キロ粒剤	シハロホップブチル シメトリン ベンフレセート MCPB (1.5) (4.5) (6.0) (2.4)	3回以内 2回以内 2回以内 2回以内	稲5葉期～ノヒエ3.5L (収穫60日前まで) は種後の初期除草剤による 土壌処理との体系で使用	1kg	湛水散布	1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
6	トップガンGT 1キロ粒剤75	ピリミノバックメチル プロモプチド ペンシルフロメチル ベントキサゾン (0.45) (9.0) (0.75) (2.0)	2回以内 2回以内 2回以内 2回以内	稲1葉期～ノヒエ3L (収穫90日前まで)	1kg	湛水散布	1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
7	トップガン フロアブル	ピリミノバックメチル ベントキサゾン プロモプチド ペンシルフロメチル (0.83) (2.8) (17.0) (1.3)	2回以内 2回以内 2回以内 2回以内	稲1.5葉期～ノヒエ3L (収穫50日前まで)	500mL	原液湛水散布	1回	○	○	○	○									
8	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	ペンタゾン (40.0)	2回以内	は種後35～50日 (収穫50日前まで)	500～700 mL/10a 希釈水量 70～100mL	落水又はごく 浅く湛水して 散布	2回以内		○	○	○	○	○							
9	ラウンドアップ マックスロード	グリホサートカリウム塩 (48.0)	耕期栽培は 2回以内 (耕期前は 1回以内) 乾田不耕期 栽培は 2回以内	耕期前 (雑草生育期)	200～500mL 希釈水量＝ 通常散布50～100ℓ 少量散布25～50ℓ	雑草茎葉散布	1回													
				耕期直後～出芽前 (雑草生育期)(乾田耕期栽培)	200～500mL 希釈水量＝ 少量散布25～50ℓ															
				は種30日前～出芽前 (雑草生育期)(乾田不耕期栽培)																

植物調整剤 (時間短縮による倒伏軽減)

番号	商品名	薬剤名 成分 (%)	成分使用回数	使用時期	10a当たり 使用量	処理方法	使用回数	注意事項
1	ビビフルフロ アブル	プロヘキサジ オンカルシウム塩 (1.0%)	1回	出穂10～2日前	75～100mL 希釈水量＝ 通常散布 50～150ℓ 少量散布 25～50ℓ	茎葉散布	1回	1 少量散布の場合は、少量散布ノズル(ビビフルノズル)を用いて、葉面に均一に散布する。 2 無人ヘリコプターを含め散布にあたっては下記の注意事項を守る。 (1) 散布機種の使用基準に従って実施し、散布機種に適合した装置を使用する。 (2) 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行う。 (3) 水源地、飲料水等に本剤が流入しないように十分注意する。 3 作業終了後は次の項目を守る。 (1) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄する。 (2) 使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者を決めて保管する。 (3) 機体散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。
					100mL 希釈水量 ＝800mL	無人ヘリコプターによる散布		

(平成22年2月現在)

編集後記

いわみざわ地域では、直まき栽培の魅力にとりつかれた生産者と関係者を中心に、「空知型輪作体系の確立」に向け、盛り上がりを見せています。明るい話題の少ない空知の水田農業の中であって、農作業の手を止め、直まき水田の前で技術談義に花を咲かせている光景をよく目にします。

空知の農業所得は4大支庁で最も低い状態が続き、低迷感を関係者のみならず農業者自身が一番厳しく感じています。

畑地化が容易な直播栽培を取り入れた「空知型輪作体系」を確立する狙いは3つあります。
 ①空知の後継者が大きな目標を持ち、夢のある水田農業を目指せる対策となること。
 ②直まき栽培を通じて、団粒構造を破壊しない、汎用化できる水田を維持すること。
 ③これまでの固定観念にとらわれず、恵まれた気象条件と豊かな水を活かし、畑作物や露地野菜の高い生産量を維持・向上させることです。
 この目標に向け生産者と我々が一体となり、空知だからできる「楽しい農業」の確立を目指して決意を新たにしています。

本資料はまだ技術革新過程である水稲直播栽培が、水田農業地帯の発展の一助となるようお願いを込めてVol.2とし作成しました。みなさんのお手元で活用していただきお役に立てば幸いです。

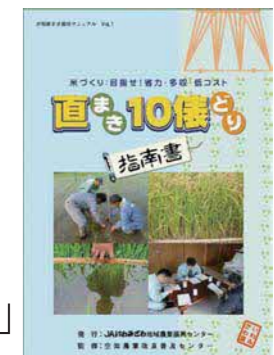
最後にこの4年間調査・本誌校正等にご協力頂いた、農業者・関係機関・諸先輩方に感謝申し上げます、編集後記とさせていただきます。(Y.S)

<参考資料>

藤田 雅久 上川地域の水稲直播栽培マニュアル「水稲直播へGO」
直まき10俵どり指南書 Vol.1

<執筆 者>

北海道立中央農業試験場 技術普及部 主 査 古 原 洋
 北海道立中央農業試験場 経営 科 研 究 員 平 石 学
 空知農業改良普及センター 調 整 係 専 門 普 及 職 員 白 石 智 行
 空知農業改良普及センター 調 整 係 実 務 研 修 員 江 戸 知 明
 空知農業改良普及センター 調 整 係 専 門 普 及 指 導 員 齊 藤 義 崇 (編集責任者)



米づくり:目指せ!省力・多収・低コスト
直まき10俵どり指南書 Vol.2

発行日 平成22年3月
 発行 株式会社 JAいわみざわ 地域農業振興センター
 監修 空知農業改良普及センター
 印刷 空知印刷株式会社
 岩見沢市2条東2丁目2-5
 TEL (0126) 22-4343

※ 執筆者の許可なく無断転載・複写・改変・再配布することを禁じます。